

新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議 主要意見

	主な意見	県対応
D X 定 義	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館DXの対象は、県民だけでなく職員※も対象 ・全てがデジタルであることが常にハッピーをもたらすものではない ・ユーザーの体験、ユーザーエクスペリエンスの向上が重要 ・ユーザーサイドから、最もその時々合理性が高く、決定権が与えられるような情報への接し方ができることが肝要 ・ユーザーが主語であって、知識や情報の基盤、コモンズとしての図書館はどうあることがより望ましいのかという観点 ・データ駆動型サービスの創出を容易にするような、図書館の組織文化の変革 (①図書館内の働き方改革、②デジタル化(既存ワークフローやサービスのオンライン化、新たな創出など)) <p>※職員…支援を受ける市町立図書館職員及びサービスを提供する県立図書館職員を含む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体のDXの流れ(他分野・海外含む)を押さえ、その中での図書館DXを検討 ・DXの対象を「県民」及び「職員」とする ・対象者が主体的に体験・選択できる合理的で効果的なサービス ・しくみだけでなく優れたコミュニケーションデザインが必要 ・BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリング)とセットでサービス向上
D X 取 組	<p><データ駆動型サービス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型サービスを実現可能とする基盤としての未来の図書館 (①マルチモーダルでの問合せ応答システム、②エビデンスベースの政策立案システム) 	<p>【長期的】 オープンデータ、ビッグデータの活用・収集</p>
	<p><地域アーカイブ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館との違いを出すということを見ると、それぞれの地域で特色を出すことが重要 ・地域資料を作る市民活動を支援、地域資料のアーカイブ機能も重要という意味では、市民と一緒に作っていく機能を考える必要 ・デジタルアーカイブをやるということは、保存できる場所が多く必要になるという覚悟がある ・静岡県立図書館が持つべきサービスは、静岡に関してなんでも分かるという図書館像 ・静岡のことにについて調べようという時に、十分なスペックを持った検索システムが必要 ・ネットで何でも検索できる時代、静岡県ならではの地域のコンテンツの充実がまず重要 	<p>【短期的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域参加型の地域情報アーカイブ構築を検討 ・県の独自性を重視 ・オンリーワンの情報を重視 ・国の情報と連携し活かせるシステム
	<p><交流スペース></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい技術が欲しい等、課題解決をするような場としての図書館、そういう人たちの交流の場 	<p>【短期的】 【第3回重点議論項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門書、レファレンス、レファレルサービス等既存のサービスだけでなく、交流の場を設置、創出
	<p><パーソナライズ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人の趣味嗜好に合った検索(パーソナライズ)ができること ・日本図書館協会が、図書館利用情報と個人情報の区別を明確にし、新基準を打ち出した。図書館利用情報の利活用が明示的に可となりつつある ・国会図書館ではやってくれないような、静岡県の図書館ならではのパーソナライズ ・一般の人が、実験システム等で公開できる部分が、システムの中で一部作れるとよい ・個人情報やプライバシーの保護という意味でのコンプライアンスを意識する必要 ・貸出履歴の活用等を敢えて明示し、より幸福度、クオリティオブライフが高まることを打ち出した新サービスに乗り出すのもひとつの戦略 	<p>【短期的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナライズの強化とサービスの選択制をセットに推進 ・貸出履歴など個人情報を可能な範囲で活用した各種サービスのパーソナライズ化を検討
	<p><モニタリング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーのモニタリングが重要、画像・映像認証はNECがトップレベル、混雑状況の把握等 ・車番から情報を取得できる仕組みを提案の中に盛り込んでいただくことが理想的 ・駐車場が大きく、車番認証技術等で車の年式型式まで取れるので、年収や家族構成等が分析可能 ・図書館アプリとカーナビ等をSDL連携し、車の走行状況等と連携したコンテンツをナビに転送して中継するなど 	<p>【短期的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場管理は現管理者のグランシップ(文化振興財団)が継続する計画になっている。 ・一次短期利用や防犯上もモニタリングはサービス向上に有効なので、可能な範囲で導入
	<p><オープンデータ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の内容をフリーテキストサーチし、本を部分的に解体して自分用の本を作るような、既存の「本」という境界を溶かす、必要な部分だけ抽出する仕組み、新しい読書の形 ・本はもう国会図書館に一つデータあればいいということになれば、静岡県で固有でどうするという部分ではなくなるのでは 	<p>【長期的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権がクリアされた資料についての全文データ化の推進 ・出典付き分離・抽出等の仕組み作り ・国立国会図書館にない地域資料等の資料が大事 ・国立国会図書館等国レベルのサービスやシステムの動向に注視し、有効に活用する
	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルリーディング的なものが今後の若い層に普及、読書の一つの形(共読) ・オーディオブックが日本でも今後普及する可能性 	<p>【長期的】 【第3回重点議論項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインとリアルを交えて交流や発信を促進する場の提供・創出 ・今後の動向に注視
開 発 ・ 運 用 方 針	<p>【委員6名全員の共通意見として、システム開発手法に部分的なアジャイル手法の導入を推奨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来のウォーターフォール型ではなく、繰り返して開発に戻れるようなものを取り入れるべき ・いきなりスクラム方式は非常に難しいため、ウォーターフォールに近い形を取り込むのが現実的 ・アジャイルと言いつつ、非常に大きな単位(サブシステム毎など)で回すやり方もある ・どんどん良くしていくという姿勢を持ってやっていくことが大事、それができる契約形態にする ・アジャイルを採用する場合、少なくとも1人は専任体制が必要。ノウハウが共有される仕組み ・システム開発そのものというよりは、計画検討のプロセスそのものがアジャイル的であること ・機動的に対応できる、作っていけるような要素を取り入て、基本の部分と分けて構築する ・基幹システム等運用上絶対に正しく動かなくてはならないものはウォーターフォールで進めるべき ・致命的なトラブルには繋がらないと考えられる部分は、アジャイルを導入し、運用していく中で検証テストし、仕様変更を行うのが望ましい ・例えば、機械学習技術を利用したチャットボットなどは、トライアンドエラーが当たり前であるので、そういう意識で進めていくべき ・建築というスピードと、情報の方のスピードの折り合いをどう付けるか(建築を進める間にも情報技術は急激な進歩) 	<p>【短期的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹システムはウォーターフォール型、DX部分はアジャイル(各システム毎にアジャイルを回すスパイラル手法に近い)など、最適な手法とスケジュールを検討 <p>・アジャイル開発については体制を整備し、制度的に実行可能か検証する</p>
事 例 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ・他県調査は、失敗したケースをしっかりと聞いていくのがよい ・ディスカバリーサービスは、地域コンテンツの扱い、サポート機能といった点を調査 ・ディスカバリーサービスを公共図書館で導入済みのところに聞いてもあまり意味がない ・ディスカバリーサービスは、大学図書館で導入が進み、おそらく最も進んでいるのが九州大学 ・データのアーカイブに関しても、他都道府県がどうやっているか調査した方がいい 	<p>【短期的(R3年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記項目を全て調査項目に追加 ・海外、他産業含め幅広くに調査 ・デジタル庁の動向も注視
組 織 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を支える人材採用育成に関しても提言を行うのが望ましい ・DXはボトムアップで解決できるものではなく、強いリーダーシップが必要(要職人事) ・今年度提言を提出した後も何らかの形で会議メンバーの一部が図書館DX推進に関与する方がいい 	<p>【長期的】 【第3回重点議論項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定程度の提言は必要 ・ここが提言のひとつの目玉になるかもしれないという認識 ・次年度以降もデジタル戦略顧問を中心とした一部委員にアドバイスを依頼